

救急科（必修・高槻赤十字病院）

1. 到達目標

- (1) 頻度の高い症候、救急疾患、外傷について初期対応を行うことができる
 - ア 適切な医療面接ができる
 - イ 身体診察を的確に行うことができる
 - ウ 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行うことができる
 - エ 頻度の高い救急疾患、創処置、皮膚縫合を含む軽度の外傷・熱傷の初期治療ができる
 - オ 救急にかかわる基本的臨床手技・検査手技（静脈採血、動脈採血、注射、点滴、導尿、心電図記録・判読、超音波検査等）を実施することができる
 - カ 専門診療科と適宜連携し診療に当たることができる
 - キ 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集することができる
 - ク 患者や家族と良好なコミュニケーションをとることができる
 - ケ 患者や家族に関わる院内外の保健・医療・福祉部門と連携し、適切な初期診療計画を立てることができる
- (2) 生命や機能予後に係わる、緊急性の高い病態を有する患者の初期対応を行うことができる
 - ア バイタルサインの把握ができる
 - イ 重症度と緊急度が判断できる
 - ウ 一次救命処置を確実に実施でき、かつ指導できる
 - エ 気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動を含む二次救命処置を実施できる
 - オ 診療チームの一員として、チームの各構成員と情報を共有し、連携を図ることができる
 - カ 緊急性の高い疾患を適切に診断できる
- (3) 災害医療の基本を理解することができる
 - ア 災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる

2. 方略（LS）

- (1) 救急対応
 - ア 救急外来で指導医の下、初期診療を行う
 - イ 軽症から重症まであらゆる重症度、緊急度の診療に携わる
 - ウ 重症度・緊急度の高い患者では、診療チームの一員として行動する
 - エ 適時診療に対するフィードバックを指導医から得る
 - オ 副直として夜間・休日の救急外来診療を行う
 - カ 外傷初期診療に関して on-the-job、off-the-job（JATEC など）トレーニングを受ける
 - キ 心肺停止患者への初期対応に関して on-the-job、off-the-job（ICLS など）トレーニングを受ける
 - ク 患者や家族に関わる院内外の保健・医療・福祉部門と積極的にコミュニケーションをとり、連携する

- (2) 災害医療対応：
 - ア 基幹災害拠点病院である当院での災害訓練・実習に参加する
 - イ 救急外来におけるトリアージを通じて、災害現場におけるトリアージの概念を理解する
- (3) カンファレンス、講義、実習：
 - ア 救急関連のカンファレンスに参加する
 - イ 救命救急センターにおける講義や実習に参加する
- (4) 臨床手技：

以下の臨床手技について指導医の指導のもと実施する

 - ア 気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、気管挿管
 - イ 圧迫止血法、包帯法
 - ウ 採血法（静脈血、動脈血）
 - エ 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）
 - オ 穿刺法（腰椎）
 - カ 穿刺法（胸腔、腹腔）
 - キ 導尿法
 - ク 胃管の挿入・管理
 - ケ 局所麻酔法、創部消毒、ガーゼ交換、簡単な切開・排膿、皮膚縫合
 - コ 軽度の外傷・熱傷の処置

3. 評価 (Ev)

全科共通の評価表Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを用いて評価

4. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
朝 (時間外)			副直		
午前	救急外来診療、 カンファレンス	救急外来診療、 カンファレンス	—	救急外来診療、 カンファレンス	救急外来診療、 カンファレンス
午後	救急外来診療	救急外来診療	—	救急外来診療	救急外来診療
夕 (時間外)		副直			